



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度「教養の森」科目群【科目群1】」
シラバスの詳細は以下となります。



| | | | |
|-------------------|---|-------|----|
| 科目名 | 哲学 | | |
| 担当教員 | 小関 彩子 | | |
| 対象学年 | | クラス | |
| 講義室 | | 開講学期 | 後期 |
| 曜日・時限 | 火2 | 単位区分 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 準備事項 | | | |
| 備考 | 全学部・全学年 【哲学B】取得者は受講不可 | | |
| 科目名 (英語表記) | Philosophy | | |
| 授業のねらい・概要・科目の位置付け | <p>哲学とは、より根源的にあらゆる問題の根底に横たわるものをあきらかにするための、諸学の基礎である。それゆえ、将来どのような専門に進む学生にとっても、およそ学問的態度を身につけるための必須の訓練と言える。</p> <p>この講義の目標は、受講者が自らいかなる前提にも常識にも拘束されずに、厳密にかつ徹底的にものごとを考え抜くことが出来るようになることである。したがって、与えられた知識を受動的に受け取るだけでは、参加する意味はない。積極的に自らトレーニングする参加者に対しては、その手助けとなるつもりである。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 人間の生 | |
| | 3 | 心と身体 | |
| | 4 | 自己 | |
| | 5 | 他者 | |
| | 6 | 自由 | |
| | 7 | 認識と知 | |
| | 8 | 中間討論 | |
| | 9 | 意味と言語 | |
| | 10 | 存在と無 | |
| | 11 | 個と普遍 | |
| | 12 | 時間 | |
| | 13 | 善と悪 | |
| | 14 | 愛と幸福 | |
| | 15 | まとめ | |
| 到達目標 | 論理的に筋道だつて考える態度と、それを他者に伝えるように書く力を身につける。 | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 (期末試験) 60% 学期中に課すレポート40% | | |
| 教科書 | 『哲学の問題点—もういちど考えてみること』 麻生博之・城戸淳編、ナカニシヤ出版 | | |

| | |
|--------------|---|
| 参考書 | 適宜紹介する。 |
| 履修上の注意・メッセージ | 基本的に出席はとらないが、私語や携帯電話の使用など、他の受講者の迷惑となるような行為は慎んでもらいたい。積極的にかつ興味をもって授業に参加することを希望する。 |
| 授業時間外学習 | 授業前にあらかじめテキストの該当箇所を読んで、理解できる点と不明な点を明らかにしておくこと。 授業後は講義内容について受講者間で議論することで、問題点を明確にし、理解を深めること。 |

